

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-3981-4201

附属機関又は 会議体の名称		平成 26 年度 政策経営会議（第 18 回）
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成 27 年 2 月 26 日（木） 午後 4 時 00 分～4 時 30 分
開催場所		区長応接室
議題		1. 豊島区の新しいキャラクターについて 2. 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金について
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第 7 条各号に掲げる非公開情報に該当する事項について審議等を行うため。
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	区長・副区長・副区長・教育長・政策経営部長（行政経営課長事務取扱）・ 総務部長（欠席）・施設管理部長・企画課長・財政課長・区長室長
	説明者	企画課長、広報課長、庁舎建設室長、交通対策課長、教育総務部長、情報管理 課長、文化商工部長、生活産業課長、文化観光課長
	事務局	企画課企画担当係長

審議経過

案件 1：豊島区の新しいキャラクターについて

(1) 案件の説明

国際アート・カルチャー都市プロデューサーの一人である たかい よしかず氏 から新庁舎のオープンを機に、新たなキャラクターの導入提案を受けた。“ふくろう”と“ソメイヨシノ”が融合したこのキャラクターを、豊島区の新時代のスタートに当たって、新キャラクターとして決定したい。活用方針として、新庁舎や国際アート・カルチャー都市等を中心に、豊島区新時代のPRに活用する。当面は、新庁舎の開庁をアピールするラッピングバス、都電を走らせるとともに、着ぐるみを作成し3月23日の新庁舎落成式に披露する。新庁舎完成記念切手シートにもデザインを使用する。名前は公募し、周知と積極的な活用を図ってまいりたい。

(2) 主な意見と質疑

区 長：都電のラッピングも良く出来ている。2車両入れられたのか。

説明者：都電は2車両、3ヵ月間である。

区 長：結構である。

副区長：「国際アート・カルチャー都市」という文字は入らないのか。

説明者：追加できるか確認してみる。

区 長：都バスも同様に入れられないか。

説明者：どちらも東京都交通局であり、同様の取扱いはできると思う。

区 長：落成式で登場のセレモニーが出来ないか。

説明者：式典は第三回を検討する。

教育長：作成中の「豊島の森」のDVDのストーリーとの調整はお願いしたい。活用の仕方については結構だと思う。

説明者：本日の決定を踏まえ、詰めてまいりたい。

区 長：このキャラクターは良いと思う。遺漏なく進めるように。

(3) 結論

提案のキャラクターを豊島区の新しいキャラクターとして決定する。

案件 2：地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金について

(1) 案件の説明

国が平成26年度補正予算で制定した地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の活用についてお諮りする。地域消費喚起・生活支援型は、国の推奨メニューに沿ってプレミアム商品券発行事業を、また、地方創生先行型は、まち・ひと・しごとの総合戦略策定事業と、国際アート・カルチャーと絡めたインバウンド推進事業の2事業を対象とし、実施計画を作成、国に申請いたしたい。事業費は、商品券発行が都からの交付金を合わせて約1億5千万円、先行型の2事業が約1千7百万円であり、平成26年度補正予算案として区議会に上程し、繰越しのうえ、27年度の執行としたい。

(2) 主な意見と質疑

区 長：これは自治体すべてで実施するのか。

説明者：全国であるが、プレミアム商品券で言えば 23 区でも数区実施しないところがある。

副区長：プレミアム商品券をやらないところは何を実施するのか。

説明者：それぞれ国と協議中であり、はっきりは分からない。

区 長：実施しないところはどこか。

説明者：今までプレミアム商品券を実施したことがないところや、この交付金の活用では実施しないというところである。

区 長：プレミアム率 20%は今まで実施したことがないと思うが。

副区長：販売の単位はどの程度を考えているのか。

説明者：1 回の販売額の上限は 10 万円の予定である。これまで本区では上限設定が 3 万円というのが多かったが、販売量を考慮し枠を広げるものである。

区 長：デパートでも使用できるのか。

説明者：これまではなかった。今後、手上げにより使用できる加盟店を決めていくことになる。

副区長：具体的な実施内容については、いつ頃決めるのか。

説明者：本日方向性が決まれば、豊島区商店街連合会と具体的に詰めていく。

副区長：その案はないのか。決まったら国へ提出するわけであり、その前に見たい。

区 長：実施したものの、商店街等々に効果がなければ意味がない。

説明者：今回の国の実施目的は個人消費の喚起である。今回 20 区ほどが実施するのは個人消費の喚起という国策に自治体として協力するという立場でもある。

区 長：事業費はいくらか。

説明者：約 1 億 5 千万円である。

区 長：どのくらいの販売量になるのか。

説明者：商品券全体では約 7 億円である。

区 長：今までのものは、どのくらいの規模か。

説明者：最近ではプレミアで 1 千万円程度である。今回は 1 億 2 千万円規模である。

説明者：今回は事務費も含め、全額が国等からの交付金で賄われる。

区 長：商店街にメリットがないようであれば何だが、消費喚起ということであり、実施しないという訳にはいかないと思う。

副区長：中身を具体的に詰めた上で報告して欲しい。それと、前回実施した際にどういったところで使用されたかを調査しているので、確認しておいて欲しい。実施する方向でよろしいか。

区 長：結構である。

(3) 結論

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用することとし、対象事業を提案の 3 事業とする。

会議の結果	1. 豊島区の新しいキャラクターについて ⇒決定 2. 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金について ⇒決定
-------	---

提出された資料等	1. 豊島区の新しいキャラクターについて 2. 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金について
----------	---